

ランドセル専門店「ランドセルの木ノ下」(奈良市古市町)を営む木下修平さん(41)は今年から母校の中学校などの協力を得ながら「ランドセルバンク」の取り組みを開始した。卒業し不要になったランドセルを回収し、きれいに修復したものを現在の新型コロナウイルスなどの影響を受け金銭面で苦労されている方を対象に先着順で無償提供する。木下さんは「受け渡しは店内で行うので、ぜひ気軽に足を運んでください」と話す。

Made
in
奈良

奈良市 ランドセルの木ノ下



ランドセルの木ノ下
木下修平さん

木下さんはランドセルメーカー「カザマランドセル」に5年ほど勤め、日本全国を営業に回りながら40歳になる前に「何かできたら」と考えていた。営業では店頭立つこともあり、その時にランドセルを購入する子どもや家族の方と触れ合うことで、間接的ではなく初めて直接お客さんが喜んでる姿を見ることができた。「その時に、よりこの仕事はいい仕事だなということが実感でき、それがきっかけになってランドセル専門店を始めようと考えました」と振り返る。

ランドセルのほかに、ランリユックというものもあるが「やはりランドセルの方がお子さまの安全が担保できます。倒れた時にはクッションになりますから。また水にも少しの間浮いていることができるんです」とランドセルの持つ機能が子どもの身を守ると説く。続けて「ランドセルは重いものを入れても肩への負担が小さく設計されています。またランドセルというのは日本独特の文化。長い歴史を紡いできていますので、そういった文化の面でも素晴らしいものだと思います」と笑みをこぼす。



1 個修復に30分から 1 時間 仕事の合間や定休日に作業

選択の幅が広がったことで「やはり女の子のカラーバリエーションが多く、親子さんと共に目移りされています。皆さんパソコンなどで調べて来られるんですが、専門店としてさらに深い部分を説明することで購入の後押しになることが多いです。男の子でいえば黒色に青い色のステッチというのがどの年代でも売れるところで、女の子でいえば、ビビットピンクが数的に出ています」という。

ランドセルは小学校を卒業すると使わなくなる。特に「今のコロナの影響が、6年間耐えることができるように頑丈に作られている。木下さんは、もともと店の売り上げの一部を使い保育施設に絵本や子ども服を寄付してきた。ランドセル専門店として他にできることを模索した結果、今年から「ランドセルバンク」を開始した。

「ランドセルバンク」は、卒業して使われなくなったランドセルを回収し、糸のほつれなどの補修やクリーニングを行い、次に使う人に無償で手渡す取り組み。特に「今のコロナの影響もあり、なかなかお金が捻出できない方などを対象にお譲りする活動です。今年から始めようと母校の中学校に協力してもらいランドセルを集めたんですが、色々なメディアなどでも取り上げてもらいその他からも電話や発送で多くのランドセルが集まっています」と、2月中旬時点で約80個のランドセルが寄せられている。

受け渡しは店頭もしくは電話で

響きも、次の手に渡ることを楽しみにしながら、作業をこなす。

「お店に直接来ていただくか、事前に電話で連絡をしていただければ先着順にお渡ししようと考えています。お店に来ていただくことで、購入したものがバンクで引き取ったものか、分かりますので、気兼ねなく受け取ってもらえるかと思えます」とひとつひとつ丁寧に、想いを込めて修復作業に取り掛かる。

汚れている部分を丁寧にふき取っていく



〒630-8424 奈良市古市町1369-10
TEL / FAX: 0742-31-6997
営業時間: 平日 11:00 ~ 17:30
土日祝 10:30 ~ 18:00
定休日: 火・水



<https://randoserunokinoshita.amebaownd.com/>